

# 東京YMCA

2024

## 東京YMCAの使命

東京YMCAは、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の精神にもとづいて、青少年の精神、知性、身体の全人的成長を願い、地域社会に奉仕し、公正で平和な世界をつくるための運動を展開する。

## 第21回東京YMCA会員大会

# 支える会員に感謝と報告



鳩山徹郎MDによる  
「山中湖センター100周年感謝報告」



笑顔で溢れたアイスブレイク



総引委員長(一番左)とユースボランティアリーダー代表の9人

「第21回東京YMCA会員大会」が5月25日に山手コミュニティセンターで開催され、会員など84人が会場で、7人がオンラインで参加しました。今年のテーマは、昨年引き続き「つながる喜びを感じよう」。誰かをつながる喜びを感じられるように、さらには、さまざまな人がつながることのできる東京YMCAの可能性や働きが広がるようにとの願いが込められました。

会場では、石川県の物産品販売と輪島漆器オークションも開催され、能登半島地震の被災地にもつながる大会となりました。

開会礼拝に始まり、総引委員長菅谷淳の挨拶の後、菅谷淳総主事による東京YMCA活動報告。社会の変化に対応しつつ、国際プログラムの再開や新たな取り組みにも挑戦した2023年度の活動が報告されました。

「能登半島地震被災地支援報告」  
東京YMCA避難所支援活動の現地責任者として避難所に常駐した芝浦

「山中湖センター100周年感謝報告」  
野外教育・ユースの鳩山徹郎MDより、目標額を超える3,000万円の募金への感謝が述べられました。そして、10

職員によるアイスブレイクやキャンピングを歌う時間もあり、大会は終始和やかな雰囲気で行。今後も会員とともにさまざまな活動を推進していくことを確認して閉会しました。

「山中湖センター100周年感謝報告」  
職員によるアイスブレイクやキャンピングを歌う時間もあり、大会は終始和やかな雰囲気で行。今後も会員とともにさまざまな活動を推進していくことを確認して閉会しました。

「山中湖センター100周年感謝報告」  
職員によるアイスブレイクやキャンピングを歌う時間もあり、大会は終始和やかな雰囲気で行。今後も会員とともにさまざまな活動を推進していくことを確認して閉会しました。

「山中湖センター100周年感謝報告」  
職員によるアイスブレイクやキャンピングを歌う時間もあり、大会は終始和やかな雰囲気で行。今後も会員とともにさまざまな活動を推進していくことを確認して閉会しました。

「山中湖センター100周年感謝報告」  
職員によるアイスブレイクやキャンピングを歌う時間もあり、大会は終始和やかな雰囲気で行。今後も会員とともにさまざまな活動を推進していくことを確認して閉会しました。

「山中湖センター100周年感謝報告」  
職員によるアイスブレイクやキャンピングを歌う時間もあり、大会は終始和やかな雰囲気で行。今後も会員とともにさまざまな活動を推進していくことを確認して閉会しました。

「山中湖センター100周年感謝報告」  
職員によるアイスブレイクやキャンピングを歌う時間もあり、大会は終始和やかな雰囲気で行。今後も会員とともにさまざまな活動を推進していくことを確認して閉会しました。



菅谷総主事による  
東京YMCA活動報告

「山中湖センター100周年感謝報告」  
職員によるアイスブレイクやキャンピングを歌う時間もあり、大会は終始和やかな雰囲気で行。今後も会員とともにさまざまな活動を推進していくことを確認して閉会しました。

「山中湖センター100周年感謝報告」  
職員によるアイスブレイクやキャンピングを歌う時間もあり、大会は終始和やかな雰囲気で行。今後も会員とともにさまざまな活動を推進していくことを確認して閉会しました。

「山中湖センター100周年感謝報告」  
職員によるアイスブレイクやキャンピングを歌う時間もあり、大会は終始和やかな雰囲気で行。今後も会員とともにさまざまな活動を推進していくことを確認して閉会しました。

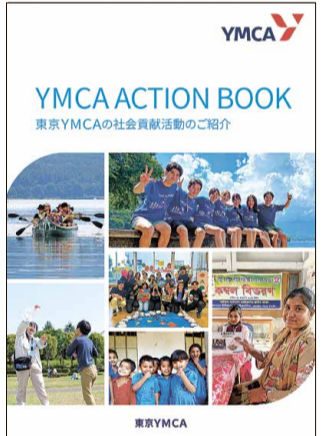
「山中湖センター100周年感謝報告」  
職員によるアイスブレイクやキャンピングを歌う時間もあり、大会は終始和やかな雰囲気で行。今後も会員とともにさまざまな活動を推進していくことを確認して閉会しました。

「山中湖センター100周年感謝報告」  
職員によるアイスブレイクやキャンピングを歌う時間もあり、大会は終始和やかな雰囲気で行。今後も会員とともにさまざまな活動を推進していくことを確認して閉会しました。

「山中湖センター100周年感謝報告」  
職員によるアイスブレイクやキャンピングを歌う時間もあり、大会は終始和やかな雰囲気で行。今後も会員とともにさまざまな活動を推進していくことを確認して閉会しました。

「山中湖センター100周年感謝報告」  
職員によるアイスブレイクやキャンピングを歌う時間もあり、大会は終始和やかな雰囲気で行。今後も会員とともにさまざまな活動を推進していくことを確認して閉会しました。

「山中湖センター100周年感謝報告」  
職員によるアイスブレイクやキャンピングを歌う時間もあり、大会は終始和やかな雰囲気で行。今後も会員とともにさまざまな活動を推進していくことを確認して閉会しました。



新しいアクションブック。ご利用いただける際は、会員部まで

## 名誉会員

「名誉会員」は、東京YMCAの発展に特に貢献のあった、満75歳以上で会員歴20年以上の方に贈られるもので、毎年の会員大会で推挙されています。

磯部 成文さん

1957年、東京YMCA少年部に入会。学生時代、神戸余島国際キャンプ、YMCA世界年長少年大会(アムステルダム)に参加した他、少年部リーダー、観音崎キャンプ駐在リーダー、野尻キャンプリーダー、全国YMCAリーダー会事務局長として活躍。1980年代より、野辺山高原センター運営委員、国際奉仕センター運営委員、基金プログラム開発委員、Focus21推進委員、東陽町ウエルネスセンター運営委員、プログラム開発委員等、数々の東京YMCA運営委員を歴任。また、10年にわたり常議員として東京YMCAの運営にご指導とご助言をいただきました。「東京YMCAインターナショナル・チャリティーラン」では障がい児支援にも多大なご貢献をされました。会社経営者としては「介護」という言葉を創った方として知られ、水着や介護用品の開発における先駆的な働きや挑戦について、東京YMCAの職員研修や午餐会等でもお話をいただきました。東京北ワイズメンズクラブのチャーターメンバーとしてもご活躍されました。

## 能登のために「買って応援、ありがとう」

会員大会の会場前で、石川県の物産品を販売。会員大会の参加者や山手センターの利用者が足を止め、買い物で被災地を支援してくださいました。

会場内では輪島漆器オークションを開催。出品物は、避難所支援活動に派遣された東京YMCAのスタッフが避難者の方からいただいたお盆や花器などです。

物産品販売とオークションの収益は、能登半島地震緊急支援募金として被災地のために使います。



石川県のお菓子、醤油、お酒などを販売



輪島塗の貴重な品々が出品されたオークション

## 赤三角

今、介護の現場に外国人スタッフは欠かせない。東京YMCA医療福祉専門学校にも多くの留学生が入学して来る。2

年前に介護福祉科を卒業したミャンマーの留学生(一発で国家試験に合格して現在は介護福祉士として勤務)がこんな話をしてくれた。▼彼女の担当するAさんから、トイレのドアをカーテンに変えてほしいとの要望が出された。ドアの開閉時にAさんの車イスがぶつかるからだ。彼女はそんな状況も、Aさんがドアを壊してしまうことを心配していることもよく理解していたので、上司にそのことを伝えると「カーテンではAさんのプライバシーが守れないからダメだ」と言われた。しかし、一番近くで介護していた彼女だからこそのわかるAさんの排泄時の様子を繰り返し説明し、上司を説得した。周りの日本人スタッフからは「すごいね!」と言われた。▼彼女は言った。「私はすごくないです。Aさんの気持ちを代弁しただけです。YMCAで学んだことを実践しただけですよ」と。▼簡単そうでも、なかなかできるものではない。YMCAのマインドが染み付いた卒業生たちが、多摩地区のあちこちの老人ホームで働いている。ガンバレ!(医療福祉専門学校 林 恵子)

### 2023年度 日本YMCAユースボランティア認証者

東京YMCAでボランティアをしている下記の52人が「日本YMCAユースボランティア」として認証されました。これは①16~35歳で、②半年以上の活動経験があり、③ボランティアの研修を受け、所属YMCAから推薦された方を対象とするもので、2023年度は全国で338人が認証されました。日頃のご活躍に感謝します。(順不同、敬省略)

貝瀬真帆	石井遥翔	中川 遥	宮崎 歩	君塚叶羽
崎山祐弥	岡 翔和	関 沙也香	柴田姫菜子	霞 衣織
岩淵穂香	和田陽花	桑原菜々美	山崎夏実	伊勢屋希貴
徳永岳大	横江将太	山本 隼	吉田梨乃	柴沼美鈴
加藤未緒子	小田ゆい	坂本優希	杉田悠真	丸山啓太
林 菜都美	橋本侑里香	永岡美空	川北詩織	村岡 悠
金子凜太郎	三木祐弥	松本拓也	半澤絢子	宮脇由依
高橋 怜	武田葉月	須川七星	金子実乃里	山本明日香
堀 清蘭	鈴木彩生	小野田ももの	丹伊田真実	並木暖佳
中村心奏	早苗理紗	香々見咲	尾崎朱理	飯沼 海
藤井大志	西田優里			

### 2024年度会員部運営委員

YMCAの会員を代表して各種活動を企画、運営し、会員増強なども担うのが「会員部運営委員」です。委員は毎年の会員大会で推挙され、任期は一年。今年度は以下の方々に委嘱されました。

- 【再任10人】**  
大橋めぐみ 小原史奈子 藏知 浩 須田哲史 御園生好子  
菟淵光彦 小口多津子 郷田典子 鈴木雅博 中村周三
- 【新任5人】**  
上田晶平 榊原正人 並木 真 蒔田敏雄 山口和彦
- \*他に、以下8人の職員が加わり、合計23人で運営してまいります。  
堀 雄二 江尻明子 大津桃子 井口 真 小野 実  
中里 敦 松本数実 口原恵美子
- 【退任5人】 \*任期満了**  
佐久間春枝 東矢高明 林 正人 平山恵子 綿引康司

## ボランティア表彰

東京YMCAは、昨年度中に活躍された会員や学生ボランティアを「ボランティア・オブ・ザ・イヤー」として選出し、会員大会の席上で感謝とともに表彰しています。今年度は、下記の方々が受賞しました。

### Volunteer of the Year

#### 下町こどもダイニング ボランティアの皆さん

「下町こどもダイニング」は、ご寄付やボランティアの皆さんの力で継続されている東京YMCA東陽町センターの子ども食堂です。毎月、手作りの美味しい食事と楽しい遊びの時間を提供しています。コロナ禍で食事が提供できない時期も、寄付品を配布するなどさまざまな工夫をして開催してきました。ボランティアの皆さんは、子どもたちへの深い愛情で食堂を支えてくださっています。

以下、ダイニング開始当初からボランティアとして活躍されている会員・金丸満雄さんの声をお届けします。

#### 子どもたちの笑顔が何よりの調味料！！

家族と一緒に夕飯を食べる機会が少ない子どもたちの、「孤食」をテーマとした「下町こどもダイニング」。2018年4月より東京YMCAの子ども食堂としてスタートしました。

特徴は、YMCAらしく、学生リーダーが子どもたちと一緒にゲームをしたり歌ったり、楽しく過ごす時間があること。そして、厨房ではワイズメン（東京ひがしワイズメンズクラブ）・山手YMCAリーダーOGの皆さん・YMCA会員有志・近隣有志の方々がボランティアチームとなり、調理&配膳担当としてサポートしています。自然と分業システムが生まれ、和気あいあいのチームワークで、経験のない大人数の食事作りに奮闘しています。

スタート時は50ほどだった食数が、今では100に近い月もあり、盛況ぶりに厨房は大忙しです。しかし、その大変さの中でも、子どもたちが笑顔で食べる姿と「美味しかった！」の一声、空になった食器を持って何度もおかわりをする様子に癒されています。

「下町こどもダイニング」のボランティアとして、これからも子どもたちの明るい笑顔と一声を糧に、サポートを続けていきたいと思えます。

この度は「ボランティア・オブ・ザ・イヤー」に推挙いただき、「下町こどもダイニング」ボランティア一同、心より感謝申し上げます。



「下町こどもダイニング」ボランティアの皆さん（前列左から2人目が金丸さん）

### Youth Volunteer of the Year

※カッコ内はキャンブネーム

◆は、それぞれの受賞者にお聞きした「リーダーとしてのやりがい」です。

岩淵穂香さん(ぼによ)  
／江東センター

日常のリーダー会の活動の他、イベントなどにも積極的に関わり、温かい雰囲気です。リーダーたちをまとめてくれる存在。体操やサッカークラスのお手伝いでも、たくさん子どもたちに愛情を注いでくれました。

◆子どもやリーダーと充実した時間を過ごすことが私のやりがいです。リーダーは何事も受け止めてくれて、困難をみんなで乗り越えようとする、すてきな仲間です。これからも仲間と活動を盛り上げていきます。



石川聖竜さん(レバー)  
／山手センター

幼児対象の「にこにこクラブ」やシーズンキャンプなどで子どもたちの笑顔を引き出し、安心感のある温かいプログラム作りをしてくれました。リーダー会では、他のリーダーに多くの気づきを与えてくれました。

◆いろいろな背景のあるリーダーが、プログラムのためにだんだんと一つになっていくところが魅力であり、やりがいだと思います。違う人間同士が一つのプログラムを作り、子どもたちの笑顔で終わると、とても喜びを感じます。



酒井彩也子さん(あんず)  
／山手センター

知的障がい児対象の「シャボン玉」に約3年在籍し、多くのメンバーの成長に寄与しました。仲間集めから後輩指導まで活動全体をとりまとめ、野外教育・ユースの事業を支える存在の一人でした。

◆子どもたちの成長や笑顔が見られることです。また、リーダーとしてたくさんの仲間に出会うことができました。リーダー会や活動を通して一緒に成長し、楽しみながらリーダーを続けることができました。



横江将太さん(シドニー)  
／南センター

2022年度末に大勢のリーダーが卒業した南センターでしたが、多くのリーダー仲間を勧誘し、一年かけて力強いリーダー会を構築。人を巻き込む力と、楽しい雰囲気を作り出すリーダーシップが光りました。

◆私のやりがいは仲間にあると思えます。この仲間はリーダーだけではなく、スタッフやメンバーなど活動に関わってくれる全ての人たちです。助け合い、ともに学び挑戦する、そんなすてきな仲間がたくさんいます。



### 東京-NY フロストバレー便り

\*ニューヨーク近郊の日系人を対象にキャンプ等を行なっている「東京-フロストバレーYMCAパートナーシップ」。現地に向向中のスタッフのお便りを紹介します。

いよいよサマーキャンプが始まる。アメリカの夏休みは、6月下旬から9月上旬までの約2カ月半。この長い夏休み、多くの子どもたちが2~4週間のサマーキャンプやデイキャンプに参加する。フロストバレーYMCAのサマーキャンプは大自然の中で仲間と過ごす教育的なキャンプであり、子どもたちの成長過程に欠かすことのできないもの。それゆえ、誰でも参加できるようにするためにYMCAは努力を惜しまない。また、質の高いキャンプを継続するため、皆に支えてもらえるよう保護者の理解を深めている。

この夏、東京-フロストバレーYMCAパートナーシップは、フロストバレーYMCAの方針に合わせる形で、サマーキャンプの受付方法や参加費を思い切って変更した。

従来、2月までの申込には参加費の早期割引を実施していたが、今年は申込時期に関わらず、必要な方に割引価格を提供できるようにした。参加費を4段階(A~D)に分け、正規料金であるA価格は、質の高いキャンプを維持するために必要な費用であることを説明し、参加者の理解を求めた。一方、参加者は家族の経済状況に合わせてB~Dの段階的に減額された料金を自由に選ぶこともできる。もちろん、参加費によってキャンプで経験する内容が変わることはない。寄付文化が根付いているアメリカと違い、日本の文化では慣れない価格設定に戸惑う家族も多いが、丁寧に説明してYMCA理解を深めてもらっている。減額が適用されたD価格でも参加が厳しい家族は、さらにファイナンシャルエイドに申し込むことができる。

コロナ禍で仕事の減少や病により収入が減り申込を躊躇している家族からの問合せには、サマーキャンプを子に経験させたいという親としての切実な願いが込められている。支え合い助け合っ、子どもたちの豊かな成長を共に願う、そんなYMCAでありたい。

キャンプで育った子どもたち、リーダーたちが、たくましくて優しい、公正で平和な世の中を築く大人になる。大切な夏休みが、安全で豊かな成長の時になるよう、気を引き締めて臨みたい。  
(東京-フロストバレーYMCAパートナーシップ 星住秀一)

東京-フロストバレーYMCAパートナーシップのサイトはこちら→



### 高石ともや Bangladesh 奨学基金 チャリティーコンサート 5年ぶりに開催 参加者との交流会も

4月29日、フォークシンガーの高石ともやさんによる「Bangladesh 奨学基金チャリティーコンサート」が行われました。

第24回の今回は、これまでと同じ日本基督教団浅草教会を会場に、コロナ後5年ぶりとなる開催。待ち望んでいた人々で多数のキャンセル待ちが出たため定員を増やし、115人が来場しました。



高石さんの力強く朗らかな歌声が会場に響いた

力強い歌声と心を打つ語りは80歳を超えてもなお健在で、高石さんのこだわりはドラムなどの打楽器は用いず、ギター1本。譜面も見ず、会場の人の目を見て語りかけるように歌うことで、来場者は皆、高石ともやさんの人柄に魅せられ、和やかな雰囲気になり込まれていきました。また、途中休憩の際には、東京YMCAから支援先のBangladeshの子どもたちについて伝える時間がありました。昨年Bangladeshを訪問した時の写真や動画などを用いて、ありのままの現状を見ていただき、理解を深めていただきました。

会場には、以前、共にコンサートを行っていた故江幡玲子氏の写真も飾られていました。高石さんが「コンサートを始めた人は自分ではなく、この江幡先生です。何でも決めて人に命令するようなパワフルな方でした。『あなたは歌があるのだからコンサートを行いなさい。お金は寄付しなさい。なぜなら、あなたは幸せでしょ。』と言われてこのコンサートを始め、その言葉が今でも心から離れず続いています。」と話され寄付の目録をくださったのが印象的でした。コンサート終了後には1時間の交流会が持たれ、高石さんと多くのファンが親交を深めました。



松本数実統括より、Bangladesh YMCAの子どもたちの様子が報告された

このコンサートの益金の一部は、Bangladesh YMCAが運営する7つの非公式の小学校(Non Formal Primary Education)の奨学基金として用います。

(国際・総合教育事業部 統括 松本数実)

### 子どもと若者の居場所支援

### 「多文化共生スペース▽(さんかく)」がスタート

今年度4月より、これまでの南コミュニティセンターと西東京地域の活動が「多文化共生スペース▽(さんかく)」(以下、スペース▽)として新たにスタートしました。障がいのある人、外国人にルーツのある子ども、若者が安心して心よく過ごせる居場所づくりを取り組んでいます。

### 「enjoy (エンジョイ)」

障がいのある人を支援。仲間と共に歩む日々を元気に生きるためのエネルギーを蓄え、発達障がいなどがある18歳以上の若者の活動の場がないことから、過去に東京YMCAの特別支援プログラムに参加していた18歳~35歳の人を対象に実施しています。

「▽(さんかく)」には、YMCAが大事にしている「精神spirit」「知性mind」「身体body」のバランスのとれた成長、人が育つために必要とされる「仲間」「空間」「時間」、そして誰もが参画(さんかく)者として共に創り上げる場所でありたい、という3つの願いが込められています。

### 「サニーサイド」

外国にルーツのある子どもたちを支援。「サニーサイド」は経堂と国立で実施。各々の進度に合わせてボランティアが勉強や日本語学習をサポートするプログラムです。国立クラスは、一橋大学学生YMCAホールを借りて開かれています。ある日の「サニーサイド」では、高校生のボランティアが小学生男子に付き添い、スマホも駆使してうまく小学生の興味を引きながら勉強相手になっていました。

「みつくす!」は、夏の居場所事業のサマーキャンプに参加したボランティアリーダーの「体験の機会を継続的に提供したい」という声から生まれました。ボランティア主体の企画・運営をスペース▽がサポートする形で実施しており、日本YMCA同盟の「Y's x SDGs Youth Action 2024」(※)から助成を受けています。このプログラムは、言葉や制度などが壁となり体験の機会に恵まれない子どもたちが、同じような背景を持つ仲間といる場所に出かける活動です。電車の乗り方や館内のマナーなどを楽しく過ごす中で日本の文化や環境への理解を深めていきます。

### 「食事の会」

生きづらさを抱える若者たちを支援。これまでの「オープンスペースlibby」(不登校、ひきこもり経験のある子どもや若者の居場所)のメンバーを中心に、おむね18歳~35歳の若者が集い、参加者とボランティアが一緒に食事を作って食べ、和やかに過ごします。「ひとりではない」ことを感じ、抱えている生きづらさを少し離れて、安心していつもの仲間と過ごせる居場所です。

本日のメニューは「ちらし寿司」



「食事の会」料理の上手下手は気にせず、皆で調理する



スペース▽ (さんかく)の詳細はホームページで

※Y's x SDGs Youth Action 2024とはYMCAとワイズメンズクラブ(通称:ワイズ)の協働事業。SDGsの定める地域課題解決に向けたユースの活動に助成金を提供し、スタッフが伴走して、課題解決に向けた活動を共に推進する。



スペース▽のスタッフ (左から) 鈴木俊明さん、江尻明子MD、押山愛紀子さん



「サニーサイド」国立クラス会場の一橋大学学生YMCAホール(手前)。内部は趣があり、静かな環境



「サニーサイド」ご寄付いただいた積み木やテキストを活用しながら、ボランティアが学習をサポート